

今月の

ブックトーク

日差しがより一層まぶしい季節です。太陽の燃えるような輝きや情熱を表す真っ赤なルビーは7月の誕生石。1冊目に紹介する『てまりのナゾほどこ帳』



荒川 衣歩・著
講談社

はそんなルビーにまつわる謎ときの物語です。舞台は江戸時代末期の長崎の出島。ある日見慣れぬ男が主人公のてまりの家の古手屋（今でいう古着屋）に、夏なものにはんてんを売りに来ます。はんてんの中にはルビーが隠されており、次の日にはすぐにほかの人が高値で買いに来きました。どうやらオランダ船から持ち出された石のようで、怪しい取引が行われているようです。一体誰が何のために？その真相を探るべく、友だちと力を合わせて出島に行くことになり…？ハラハラのひと夏の冒険です。

ルビーの他にも美しい宝石はたくさんありますが、それらを自分で探せるのが『こどもが探せる川原や海辺のきれいな石の図鑑 改訂版』です。実際に水辺で見つけた石の写真がたくさん載っていて、なんの鉱物なのか見分ける方法も書いてあります。鉱物、鉱石、宝石、岩石など名称の違いや、皆さんが目にして石も、複数種類の鉱物が合わさってできている物も多いことなどがわかります。海や川で比較的石が探しやすいおすすめスポットを20カ所も紹介。2015年刊行の本の改訂版で、場所写真も最新情報です。探す時の持ち物や服装も載っているので、おうちの人と行ってお気に入りの石をどちらがたくさん見つけられるか、競い合っても楽しそうですね。



柴山 元彦、
井上 ミノル・著
創元社

海と石のおはなし

鈴木 千尋／和光小学校学校司書

こちらの親子も石のことで競い合ったようです。

『小さなバイキングビッケ』はあらくれものの大人の海賊にまじって小さなビッケが大活躍する物語。ある時、お父さんと石運び競争をすることになったビッケ。力自慢のお父さん・ハルバルが大きな石をどんどん運ぶ中、力ではなく、知恵で勝負することに！玄関のドアを外し、あるものを作って勝負に勝ちます。そんな賢い息子を、ハルバルは一緒にバイキング遠征に連れていくことにし、船に乗せます。敵に捕まった時、何度もあつと驚く方法をビッケが考え付きますよ。例えば、牢屋に入れられた時、珍しい魚でピンチを切り抜けます。さてどんな方法だったかは、ぜひ読んでみてください。

ビッケ親子は2人で石運びをしました。『巨石運搬！海をこえて大阪城へ』は大勢の人が力を合わせて巨石を運んだ実話絵本です。瀬戸内海の島で、石切り歌を歌いながら大勢の石工が切り崩した巨石を、シュラという大きなソリに乗せてみんな引っ張ります。たいこやほら貝も鳴らして、まるで祭りみたいです。船に乗せて海を渡り、大阪城の石垣になっていく様子が、開くしかけで楽しめる本です。昔の人の知恵とパワーで運ばれた石が、今も大阪城を支えているんですね。

私たちの周りの石も、この先の未来で誰かのお気に入りになったり、どこかの建物の一部になったりするかもしれないと思うと、なんだか見え方が変わってくる気がします。



鎌田 歩・作
アリス館

最後のページのクイズの答え： Q1 ③ メス呼ぶため Q2 ② 徳川吉宗 Q3 ① ごしきの短冊(5つの色)
Q4 ① 砂糖を入れた冷たい麦茶

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

